

先魁 2018 セミナー 生化学・腎臓内科合同セミナー

大学院医学専攻・博士課程 *up-to-date* セミナー
Medical Research Training プログラムセミナー

演題：「腎臓病と細胞・オルガネラ連関」

演者：稲城 玲子博士

東京大学大学院医学系研究科

慢性腎臓病（CKD）病態生理学講座 特任教授

日時：平成 31 年 2 月 21 日（木）午後 5：00～6：00

場所：医学類 第 2 講義室

全世界には 8.5 億人の腎臓病患者がおり、その数は糖尿病患者数の 2 倍に相当する。その治療（血液透析、腎移植を含め）は高度でかつ高額で、死亡原因の上位を占める。一方、日本は世界的に見てもいち早く超高齢化社会を迎え、持続可能な健康長寿社会を築くための戦略として、腎臓病の克服、特に慢性腎臓病（CKD）撲滅の重要性が指摘されている。なぜ日本を含め世界中で CKD が増え続けているのか？ その理由として高齢化そのものが CKD の加速要因であることや、生活習慣の破綻で糖尿病性腎臓病（DKD）が増加していることなどが挙げられる。また CKD 患者は極めて予後不良で、健康寿命が短い。具体的に CKD は生活習慣病（心筋梗塞、動脈硬化、脳梗塞）発症・進展のリスク因子で、CKD 撲滅は臓器連関破綻の改善に繋がる。腎臓は血中老廃物を濾過し血液浄化を行い、一日約 150L の原尿を 99%以上濃縮するために、機能の異なる腎臓細胞群（糸球体足細胞、尿細管上皮細胞など）から構成されている。故に、腎臓は他の臓器に比べて腎臓細胞間の相互作用（細胞間クロストーク）が機能維持のために大切である。近年、そうした腎臓細胞間クロストークの破綻、それによる細胞内小器官（小胞体、ミトコンドリア、ゴルジ体といったオルガネラ）の機能・形態障害、ひいてはオルガネラ間の相互作用（オルガネラクロストーク）の破綻がいかに CKD の病態形成に関与するかが注目されている。生活習慣病や加齢と密接な関係にある CKD の革新的病態生理学を、そういった観点から追求し、より有効な CKD 予防・治療戦略の開発、ひいては健康長寿社会の構築を目指している。

多数の研究者・学生の方々のご参加をお待ちしております。

後援：金沢大学十全医学会

連絡先：医学系血管分子生物学 山本靖彦（2182）

腎臓内科学 和田隆志

◇大学院 *up-to-date* セミナー（循環科学専攻・医学専攻）として認定します。

◇MRT プログラムセミナーとして認定します